

米作りの盛んな越後平野

兵庫県西宮市立深津小学校 國村 真

1 はじめに

この稿では、地図帳から読み取れる米作りと自然環境について述べていくことにします。

2 米作りと自然環境

ア)「米作りの盛んなところはどこ？」

と子どもたちに聞きました。地図帳のP.63を見ると、『日本のすがた』ということで、各都道府県の統計が載っています。・新潟県
・北海道・秋田県
・福島県・宮城県…

と答えが返ってきました。そこで、「この5つの道県に共通していることを見つけよう。」と子どもたちに返しました。子どもたちが地図帳を使って自由に調べる時間を作りました。すると、地図帳P.59を見ていた子どもたちから

- ・緑色のところが広がっている。
- ・太い大きな川が流れている。
- ・東北地方が多い。

というようなことが出てきました。

イ) 新潟県で米作りが盛んなわけ

そこで、今度はより具体的に新潟県で米作りが盛んなわけを地図帳P.9を見ながら考えていきました。子どもたちからは

都道府県	米 (万t) 2002年
1 北海道 (ほっかいどう)	58.0
2 青森 (あおもり)	29.9
3 岩手 (いわて)	31.7
4 宮城 (みやぎ)	42.7
5 秋田 (あきた)	51.7
6 山形 (やまがた)	42.3
7 福島 (ふくしま)	44.1
8 茨城 (いばらき)	41.8
9 栃木 (とちぎ)	36.4
10 群馬 (ぐんま)	9.2
11 埼玉 (さいたま)	17.7
12 千葉 (ちば)	32.2
13 東京 (とうきょう)	0.1
14 神奈川 (かながわ)	1.6
15 新潟 (にいがた)	65.2

帝国書院『小学生の地図帳』(初訂版) P.63



『小学生の地図帳』(初訂版) P.59



『小学生の地図帳』(初訂版) P.02

- ・大きな川が流れている。
→信濃川、阿賀野川
- ・緑の部分(平野)も広がっている。
→越後平野、高田平野

川の流れをさかのぼって行って、越後山脈を見つけました。この学習を通して、子どもたちは、米作りには・豊かな水が必要であること。・広く肥えた土地が必要であること。を学びました。

3 おわりに

ただ単に、地名を覚えるために地図帳を開くのではあまりにも味気ないと思います。テーマを決めて子どもたちに地図帳を見せると、子どもたちの頭の中にいろいろな風景が浮かんできます。「春になると山々から雪解け水が音を立てて流れるんだ。」
「冬の間は、信濃川や阿賀野川の様子はどんなのだろう。」

「春になるのを待ちわびている農業をされる方の表情が地図帳から見えてくるみたい。」
自分の社会科ノートに表記していました。

ややもすると無味乾燥な地図帳も、使い方によっては、その中から、子どもたちがそこには描かれていない思いを膨らませていくことができ、次時以降の学習意欲を高めることができます。また、普段何気なく食べているお米を作る、自然環境や農業を営まれている方々の苦労や喜びを地図帳を通して感じることの意義は大きいと思います。



『小学生の地図帳』(初訂版) P.9